

個人線量計による測定結果について

- 測定機器 個人線量計 型式 DOSE e nano 機器No,65
- 測定期間 2019年8月31日 1時05分 ~ 9月4日 16時00分
累計時間 110時間55分

1. 結果およびグラフの見方

- 縦軸： μSv （マイクロシーベルト）、横軸：時刻
*シーベルト（Sv）：人が受ける放射線被ばく線量・各グラフは1分ごと（図1）、1時間ごと（図2）、累計積算線量（図3）を示しています。
- 表3は、測定を開始してから終了までに、自分が受けた放射線量の合計を表します。
- 受けた放射線量はどれだけの線量の場所に、どのぐらいの時間滞在したかで異なります。累計積算量では急に上がらないことがグラフよりわかります。

2. 結果に基づく推定

今回の行動パターンから一年間の外部被ばく線量を仮に推定すると以下ようになります。

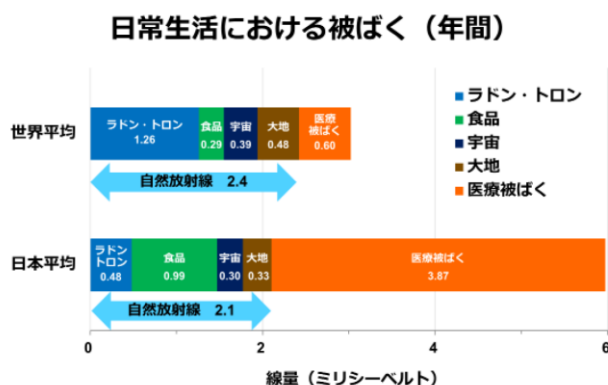
- 測定結果 累計 **0.00682** ミリシーベルト
- 1年間の推定値 : **0.54** ミリシーベルト
推定値 = (測定値/測定時間 × 24時間 × 365日)
= 0.00682 ミリシーベルト / 110時間55分 × 24時間 × 365日
= 0.54 ミリシーベルト*

*推定値には、事故がなかった場合でも大地から受ける放射線量を含みます。

参考：大地から受ける放射線量0.33mSv/年（下図：日常生活における被ばく（年間））

3. その他 グラフを見るにあたってのご参考

■ 年間あたりの被ばく線量の比較



出典：国連科学委員会（UNSCEAR）2008年報告、（公財）原子力安全研究協会「生活環境放射線」（平成23年）より作成

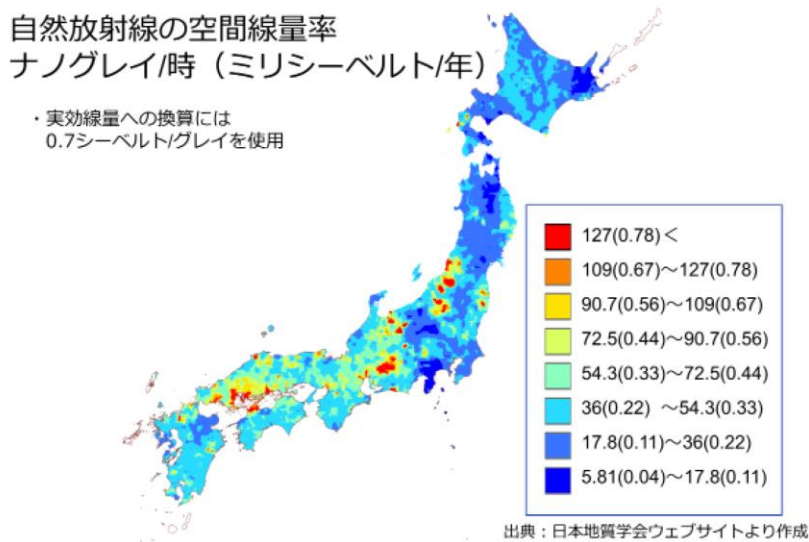
1年間に受ける日本人の平均被ばく線量は5.98ミリシーベルトであり、そのうち2.1ミリシーベルトが自然放射線からの被ばくであると推定されています。

※出典：「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料 平成30年度版」 P66より

■ 大地の放射線（日本）

国内でも、大地からの放射線量が高い所と低い所があります。県単位で比較すると空間線量率は、最も高い岐阜と最も低い神奈川では年間0.4 ミリシーベルトの差があるといわれています。

関東ローム層が大地からの放射線を遮へいする関東平野では、概して大地からの放射線量は少なくなっています。一方、花崗岩には、ウラン、トリウム、カリウム等の放射性核種が比較的多く含まれていることから、花崗岩が直接地表に露出している場所が多い西日本では、東日本より1.5 倍ほど大地からの放射線量が高い傾向があります。



※出典：「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料 平成30年度版」 P69より

図1. 1分間あたり受けた放射線量

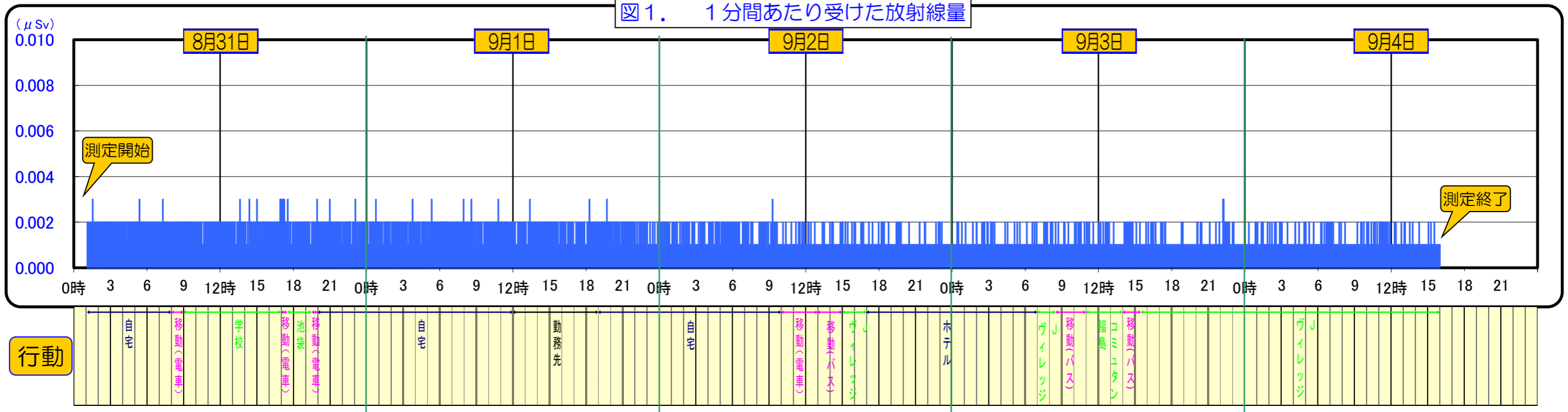


図2. 1時間あたり受けた放射線量

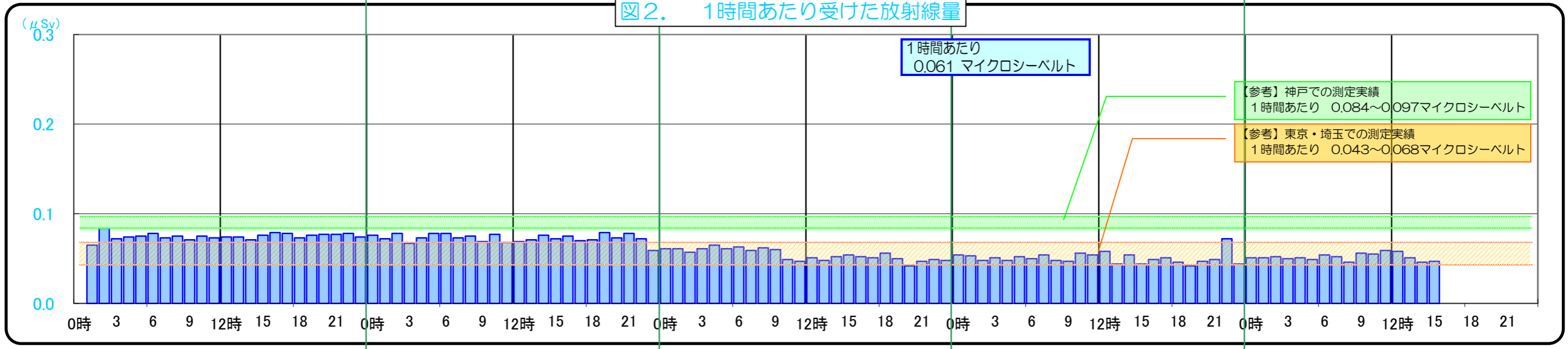
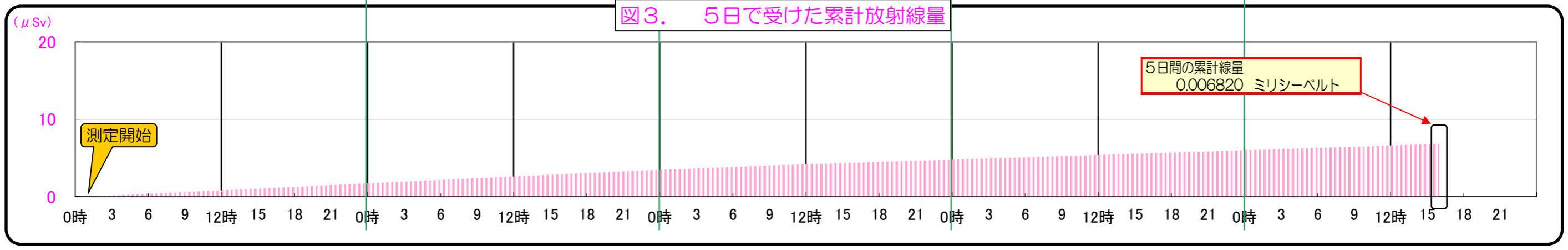


図3. 5日で受けた累計放射線量

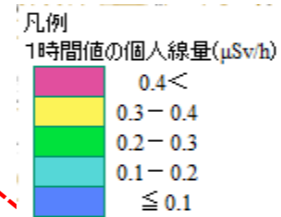


個人線量計(DOSE e) + GPSロガーによる測定

拡大図

通勤圏福島

測定終了



拡大図

勤務先(埼玉)

自宅

